

先進的あるいは特色ある教育課程	学校名等	課程
「探究的な活動の充実」	埼玉県立小川高等学校	全日制 普通科

ア 取組状況について

① 教育課程

(教育課程編成)

- ・本校は、「主体的・対話的な教育活動をとおして深い学びを実現し、進路を拓く地域に根差した進学校」を目指す学校像とする、創立95年目を迎える全定併置の普通科高校である。全日制では、令和元年～3年度まで文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定を受け「おがわ学」に取り組み、4年度は埼玉県「地域探究推進事業」、5年度は埼玉県「学際的な学び推進事業」の指定校として、「おがわ学」に継続して取り組んでいる。
- ・各学年に「進学選抜クラス」1クラス「普通クラス」4クラスがあり、両クラスとも2学年から文系理系を選択する。「進学選抜クラス」では2学年から受験科目中心の文系理系カリキュラムを展開し、両クラスとも3学年では進学や就職向けの多様な選択科目を設定している。

(授業展開)

- ・1学年では「進学選抜・普通クラス」とも同一科目の履修による基礎学力の充実、2学年では両クラスとも文系理系に分かれての進路を見据えた得意科目の伸長、3学年では両クラス文理系とも希望進路に応じた選択科目の履修による進路実現を目標に、授業を展開している。
- ・「総合的な探究の時間」において、小川町の豊かな自然、伝統、文化や地域の人々との交流等を題材として、そこから様々な課題を見出しその解決に向けて考え抜く「おがわ学」という「探究的な学び」に全生徒が取り組むことで、主体的・対話的に深く学ぶ力を高めている。
- ・令和2年度からGoogle Workspace for Educationを本格的に活用し、授業開発を行ってきた。「おがわ学」の授業では、生徒同士が相互に協力しながら、共通の目標や課題解決に向けて取り組む場面が多い。こうした特性を踏まえて、ICTを活用した「協働的な学び」(思考ツールとしての活用、共同編集機能の活用やパフォーマンステストの実施等)を実践している。

② 教員の指導力向上

(教員研修)

- ・経済産業省「未来の教室事業」や県指定事業「越境×探究！未来共創プロジェクト」への教員派遣、国立教育政策研究所調査官訪問指導、海外日本語教師研修や町内小中高連携研修会等での研修成果を校内研修会で共有し、「総合的な探究の時間」等の指導力向上に繋げている。

(外部人材の活用)

- ・「おがわ学」に係る講演や体験活動において、外部連携機関(小川町役場、地域民間企業、地元NPO、地域活性化センター、JICA、立教大学、東洋大学、立正大学、日本薬科大学、ブラフトン高校やフィンドレー大学)が持つ専門性を活用して、生徒の深い学びを実践している。
- ・外部人材を含む「おがわ学運営協議会」での定期的な情報交換をとおして、「おがわ学」の企画運営にPDCAサイクルで取り組み、「おがわ学」での学びを定期的にアップデートしている。

③ 校内組織

- ・「総探運営委員会」を本年度から定例化して情報交換を推進し、1学年の各教科、学校行事やLHR、2・3学年の「総合的な探究の時間」で、委員会が主導して「おがわ学」を実践している。

④ 施設設備

- ・令和3年度入学生からBYODによる一人一台のタブレットを活用する学習活動が始まり、令和5年度には全学年の全生徒が一人一台のタブレットを活用できる状況に整備された。

⑤ 取組の成果の(都道府県)全体への普及・共有方法

- ・「おがわ学フォーラム」を町内の全小中高が連携して実施し、地域住民や中学生等に対しても公開することで、「おがわ学」に関する波及効果と本校教育活動への理解促進に繋げている。
- ・令和4年度は「越境×探究！未来共創プロジェクト」で成果発表を行い、5年度は「学際的な学び推進事業」で成果発表を行う。複数大学でもおがわ学の取組と成果に係る講義を行う。

イ 今後の課題

- ・生徒自身が自分事として捉える探究課題の設定、「探究的な学び」に係る教職員の生徒への支援の在り方、「おがわ学」企画運営に係る持続可能な体制づくり等が今後の課題である。